

Sji

人とクルマのいい関係をめざして

6

2005 JUNE

編集室：〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1
本田技研工業株式会社
安全運転普及本部内
電話 048(452)304編集人：河野光彦
年間購読料：1200円(定価1部100円・消費税込)
郵便振替 口座番号：00170-7-173273
加入者名：㈱アストクリエイティブ
安全運転普及本部係今月の
スポット二人乗りの際は「主役は
パッセンジャー」と意識す
ることが大切です。そう
思うことが快適で安全
な運転につながります。
(特集より)

CONTENTS

- 特集：高速道路二輪車二人乗りスタート..... ①
広がる二輪車の楽しさ
- TRAFFIC ADVICE..... ④
HMS(Honda Motorcyclist School) サンセットコース / タ方から夜の時間帯を利用してバイクの安全運転スキルを身につける
- SAFETY REPO ④
(株)ホンダ四輪販売新潟 / 体験を通じ、安全で快適なカーライフを提供する
活動短信 / 交通教育センター5月
- OPINION ⑤
岡村和子 / 将来の運転者となる子どもに、チャイルドシート使用の習慣化を
- VOICE ⑤
- DOCUMENT EYE 184 ⑥
地方都市の信号機のない交差点で車両の一時停止状況を観察する

特集 高速道路二輪車二人乗りスタート 広がる二輪車の楽しさ



今回のツーリングでは東名高速道路を利用して神奈川県箱根・芦ノ湖へ向かった

休憩時にはレーサーの宮城さん、インストラクターの矢島さんがライダーとパッセンジャーに個別アドバイスを行った



今年4月1日、改正道路交通法の施行により、高速道路(一部区間を除く)での二輪車の二人乗りが可能となった(20歳以上、免許取得後3年以上、126cc以上の二輪車が条件)。高速道路で安全かつ快適に二人乗り走行するには、ライダーとパッセンジャー(後部座席同乗者)がどのような乗り方をすればよいのか。また、ライダーたちの意識や、ツーリングの楽しみ方はどのように変わっていくのか。一般のライダー、パッセンジャーと安全運転教育を行う指導者が実際に高速道路を走るなかで探ってみた。

5月12日午前9時30分、ホンダ青山ビルに、レーサーでホンダ・スーパースポーツライディングスクール・アドバイザーの宮城光さん、交通教育センターレインボー埼玉・インストラクターの矢島拓さん、そして、鈴木雅也さん、弘子さん、岡田哲治さん、雅世さんの2組の夫婦が集まった。これから、東名高速道路を利用して、神奈川県箱根・芦ノ湖までのツーリングが始まる。鈴木夫妻は大型スクーターのホンダ・シルバークラウド600、岡田夫妻はアメリカンタイプのホンダ・シャドウ750に乗る。ライダーは夫である鈴木雅也さんと岡田哲治さんが担当した。2組とも高速道路での二人乗りは初めての体験という。

出発前にホンダ青山ビルの駐車場で、インストラクターの矢島さんが二人乗りの正しい乗車姿勢と、シャドウ750、シルバークラウド600の車両特性に基づき、運転のポイントの説明する。「後部座席とライダーの座る位置に高低差があると、パッセンジャーがつかまる位置が腰からだんだん脇の方へと上がっていくってしまいます」との説明には、思わず笑いが起きた。乗車の際に、宮城さんが「パッセンジャーが乗車する時は、転倒防止のためにサイドスタンドを出しておきましょう」とアドバイスする。

10時45分にホンダ青山ビルを出発。国道246号線を世田谷方面に走り、東京ICから東名高速道路に入る。宮城さんが乗車するホンダ・CB1300 SUPER BOLDORを先頭に、鈴木夫妻、岡田夫妻が続き、ホンダ・VFRに乗る矢島さんという順で、走行車線を千鳥走行で進む。千鳥走行とは、バイクが複数で走る時、2列に隊列を組み、左右の列を車間の半分程度ずらして走ること。全体の列を短くするだけでなく、斜め前のバイクや前方が見やすくなるというメリットがあり、複数でツーリングを行う際に適した隊列である。途中、宮城さんと矢島さんが入れ替わり、宮城さんも2組の運転を観察した。12時、海老名SAに到着。昼食後に駐輪場で、宮城さん、矢島さんから先程の高速道路上での走行に関してアドバイスが行われた。その後、再び高速道路に戻りカーブや勾配が連続する区間を走って足柄SAで休憩をとった後、御殿場ICで東名高速道路を出る。鈴木夫妻、岡田夫妻とも料

タンデム走行の際は「主役はパッセンジャー」 高速道路二人乗りのセーフティポイント

金所での精算はパッセンジャーが行った。国道138号線から箱根スカイライン、芦ノ湖スカイラインなどのワインディング路(山間部の曲がりくねった道路)を経て午後3時、目的地である芦ノ湖に到着した。バイクの運転経験がない鈴木弘子さんは、「250CCのオフロードタイプのバイクで一般道路を一人乗りしたことがあります。シート幅が小さいので、長距離の二人乗りをする気にはなれず敬遠していましたが、

セーフティポイント「乗車姿勢」

ライダーとパッセンジャーが一体になることが基本

アドバイス：矢島 拓さん

基本姿勢はパッセンジャーがライダーの腹部周辺に両腕をまわした状態で両手を組みます。ライダーとパッセンジャーの間が空きすぎるとどうしてもし体感が生まれにくくなつてしまつたので、離れすぎない自然な位置に



今日はリラックスできました。風を直接感じられて気持ち良かったですね」と、初めての高速度道路でのタンデムツーリングを満喫したようだ。

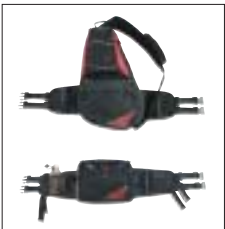
2005年4月より、全国8カ所にあるホンダの交通教育センターではHMS(ホンダ・モーターサイクリスト・スクール)の中にタンデム(二人乗り)コースを設けた。安全・快適な二人乗りのためのレッスンをパッセンジャーとともに受講できる。

置に乗車してください。ただし、ライダーと近すぎるとライダーの操作性やコーナリング時の身体の傾斜などの妨げになるので注意が必要です。パッセンジャーの乗車経験が少ない場合は、ライダーの腹部周辺をしっかりと持った方が安心できるでしょう。

ライダーが安心できるポイントはパッセンジャーの膝。パッセンジャーはライダーの腰から太股の付け根あたりを膝で挟み込む形になります。この力が抜けているとライダーが不安を感じますので、パッセンジャーは、特に加速時、減速時には膝を意識してください。



今回のツーリングで、ライダーの鈴木雅也さんと岡田哲治さんは、タンデムツーリング用のバッグを使用した。鈴木さんは肩からかけるワンショルダータイプのバッグ、岡田さんは腰に装着するヒップバッグ。どちらも、腰のベルト部分にグリップが付いていて、パッセンジャーがそのグリップを握れるようになっており、パッセンジャーの鈴木弘子さん、岡田雅也さんの両名にも、「便利で使いやすかった」と好評であった。このようなグッズを利用することで、より快適なタンデムツーリングを楽しめるようになる



質問・感想

出発前に、鈴木弘子さんが「減速時、身体が前に行きすぎてしまつた場合はどうすれば良いでしょうか」と質問。

矢島さんが回答する。「膝を締めることで。あまり前に出てしまつと、ライダーにはそれが負担になる場合があるので、前に行きすぎないように。例えば、ライダーの腰を押さえて自分でちよつと突っ張ってやるといつのも良いでしょう。腰を押される分には、ライダーの身体はタンクで固定されているので、ライダーにはそんなに抵抗感がありません。また、後ろにグラブバーが付いている車種では、場合によってはグラブバーを握っても構いませんが、両手で

セーフティポイント「旋回時の姿勢」

ライダーの動きに合わせてパッセンジャーも荷物になつたつもりで一緒に動く

アドバイス：矢島 拓さん

バイクが傾いて旋回をしていく中で、パッセンジャーは簡単にいうと、後ろで荷物になつたつもりになつてください。例えば、ライダーが傾くに対して、パッセンジャーの乗車経験がないために怖いからと、傾きと反対側に身体を起こしてしまつ方がいます。これはライダーが意図していたよりもバイクを傾けにくくなり、曲がりきれないことがあります。パッセンジャーは、ライダーの傾きに合わせて同じように動きましょう。

質問・感想

出発前の岡田雅也さんの質問は、自らもバイクを運転する人ならではの「曲がる時に自分から身体を傾けたり、ステップを踏むように意識した方が良いですか」。矢島さんが回答した、「あまり意識しなく

セーフティポイント「パッセンジャーへの配慮」

パッセンジャーに不安を与えない運転をする

アドバイス：宮城 光さん

私はパッセンジャーを乗せる時はリズムジンの運転手になつたつもりで運転します。パッセンジャーに不安を与えないように、

グラブバーだけ握っているつもりでも、のけぞるような姿勢になるので、加速の時にパッセンジャーが対応できない場面が出てきます。グラブバーを握る場合は、どちらか一方の手はライダーの腹部周辺を抱えるようにしましょう。

海老名SAで鈴木弘子さんは、「走っているうちに自然と膝が開いてしまいました。大型スクーターではシートの位置に段差があるので、膝を締めようとする主人の脇の下あたりを押さえることになるので、ちよつと遠慮きみになってしまいました」と出発前の矢島さんの説明を思い出したようだ。

が良いです。かえってやらない方が良いでしょう。ライダーの腹部を抱えて、ライダーが動いたら、それに合わせて同じように動いてあげると良いです。自分で意識的に内側のステップをぐつと踏むと、ライダーが対応できない場合がありますから、しない方が良いでしょう。



出発前に矢島さんがライダーとパッセンジャーの乗車姿勢など安全運転のポイントを説明

質問・感想

目的地の芦ノ湖に着いた岡田哲治さんは、「妻を後ろに乗せていたので、運転操作がラフにならず、宮城さんの小指の使い方

早めにクラッチを握って止まります。走行をギクシャクさせないために、アクセル操作に気を配ってください。アクセルグリップを握る右手では、小指に力をいれることを意識して心がけています。タンデム(二人乗り)は普段よりも重たい状態なので、アクセルコントロールに多少苦労する場合があります。小指をうまく使うと走行時にギクシャクした動きを抑えられるはず。また、パッセンジャーが女性の場合なら、休憩はさらに早めにとりましょう。パーキングエリアに休憩するくらいの余裕や気遣いがあったても良いと思います。

アドバイス：矢島 拓さん

いつもパッセンジャーを思いやった運転をすることを心がけていただきたい。若い人は自分の走りに夢中になつてパッセンジャーのことを忘れてしまつたことがあります。いつも、大事なパッセンジャーのことを思いやりながら走ることを意識してください。大型スクーターでは、ライダーは、減速時は足を前に移動させても構いませんが、そうしないと身体を支えられないのは相当な急制動です。ブレーキがパッセンジャーに対しては強すぎるといふことになり。逆に言うと、そういう状況を作らないことが、不安を与えない運転になります。



二人乗りの場合、料金所ではパッセンジャーが精算を行うことでスムーズに通過できる

特集 高速道路二輪車二人乗りスタート 広がる二輪車の楽しさ



高速道路でのパssenジャー経験が初めての鈴木弘子さんは、コミュニケーションを自分からしていくようにしたという。ただ後ろに座っているのではなく、パssenジャーからもライダーに自分の意思を伝えた方が良く、結構話しかけていました。高速道路でも80km/hまでなら話ができます。

アドバイス：矢島 拓さん
車線変更の時は、前後の状況を確認。ウィンカーを出してからさらに後方を確認して車線を変更します。

車線変更などでは、ライダーはパssenジャーに声をかけるなどして合図を送る

セフティポイント「コミュニケーション」

のアドバイスが効いてスムーズに、安全に楽しく走れました」と、パssenジャーが主役の運転に納得したようだ。一方で、パssenジャーの岡田雅世さんは、路面の段差が気になったようだ。「できるだけ路面を見て段差を早期に見つけて身構えていたが、段差による振動を感じました。これについて宮城さんは「高速道路のタンデムで注意しておきたいのが路面」という。特に橋のつなぎ目、橋梁などにはつなぎ目に構造物の伸び縮みを補正するために鉄板が入っています。この部分がすべりやすく危険です。私は一人で走る時も、橋のつなぎ目では車線変更はしません。ましてタンデムでは絶対にしないです。また、自分で路面の段差などを見てみると、それに対する構えができます。見ていないと自分の身体が対応できず、段差を乗り越えた時に衝撃がきてしまいます。岡田雅世さんが実践したようにパssenジャーも、前方の道路状況を捉えることが必要ですね。



高速道路の二人乗りは初めてという鈴木夫妻、岡田夫妻からの質問にわかりやすい言葉で答える宮城さん

てもらうことが良いでしょう。パssenジャーとライダーの一体感は、乗車姿勢だけでなく、こうしたコミュニケーションによって得られるのです。もし、後ろの人が眠くなっていたら、膝をきつめにたたくとか、多少刺激を与える必要もあります。不安を与えないということと矛盾する部分もありますが、眠ってバイクから落ちてしまったら意味がありません。

質問・感想

高速道路でのパssenジャー経験が初めての鈴木弘子さんは、コミュニケーションを自分からしていくようにしたという。ただ後ろに座っているのではなく、パssenジャーからもライダーに自分の意思を伝えた方が良く、結構話しかけていました。高速道路でも80km/hまでなら話ができます。

大型トラックとの併走では風の影響を受けるので近づかない

セフティポイント「横風」

アドバイス：宮城 光さん
風が強い日には、大型トラックが横を抜いていくと、巻き込んでくる風と吹いている風がダブルで吹いてきて、かなり車体が左右に振られる場合があります。また、上りが続く区間では荷物満載の大型トラックは加速が悪くなり、大型トラック同士で追い越すのに時間がかかることもよくあります。こんな時はあまり近づかない方が無難。待つか、早めに追い越すかです。近くに

ると、風の影響を受けてしまいます。
アドバイス：矢島 拓さん
高速道路では風の影響も無視できません。ライダーが感じる以上に後部座席のパssenジャーは大型トラックのブレスチャーや風を感じます。トンネルの出入口付近や橋以外にも大型トラックとの併走で受ける風には、注意が必要です。

コーナーではあまり傾けずに曲がれるように

セフティポイント「ワインディング路」

アドバイス：宮城 光さん
コーナーが多く、景色も良いのがワインディング路です。二人乗りでは、なによりも無理せずに、コーナーではあまりバイクを傾けずに曲がれるように、また、パssenジャーに不快感を与えないように速度をコントロールして気持ちよく走りましょう。

の際は荷重がかかってくるので、前後のブレーキのかけ方の配分を状況に応じて変えてもらっても構いません。パssenジャーに配慮したブレーキとなるべく、後輪ブレーキをまず軽くかけていくということになると思います。

質問・感想

タンデムでワインディング路を走ったのは初めての鈴木雅也さんは、ブレーキングに気を配ったという。「妻は自分ではバイクに乗れないので、バイク特有の感覚やこれから先にはどのような挙動が起こるのかを全く予測できないようです。ブレーキングをした時の妻の怖がり方が解ったので、徐々に修正して不安感をぬくったりしていました。宮城さんのおっしゃった小指を利用したアクセルコントロールは効果がありました。」



写真上/御殿場ICから箱根・芦ノ湖まではワインディング路が続いた
写真下/右から、宮城光さん、岡田哲治さん・雅世さん、鈴木雅也さん・弘子さん、矢島拓さん

パssenジャーへの配慮が安全運転につながる

高速道路でのタンデムツーリングを終えて、鈴木弘子さんは「ツーリングの後半になつてようやく余裕が出てきました。自分の意思をライダーに伝えるだけではなく、ちゃんと伝わっているのかどうか、お互いに確かめ合いながら行くのが安心できました。それからは私も余裕が生まれてきました。今度からは一人だけではなく友人同士で何かで情報交換しながらタンデムツーリングに出かけてみたいと思います」と感想を話す。

矢島さんは「車種によって二人乗りをする時のバイクの特性が違うのですが、共通するのは『良い意味で無理をしない』ということ。無理をしないというのは、ノロノロと走るわけではなく、ちょっと抑えた走りの中でも楽しめる運転をするということ。パssenジャーへの配慮は周りを走るクルマなどに迷惑をかけない運転につながります。ルールとマナーを守った運転をすれば、クルマから同じ交通社会の仲間と認めてもらえるでしょう」と講評を述べた。

最後に宮城さんが、「二人乗りの際は『主役はパssenジャー』と意識することが大切です。そう思うことが快適で安全な運転につながります。クルマの場合は、同乗している二人がケンカ中でも走れませんが、バイクの場合はそれが難しい。お互いに協力し合うことが必要です。二人乗りの場合はコミュニケーションが重要なので、慎重に運転しながらもさらに声を掛け合ったり、会話する場合も相手に伝える言葉を選んだり、声を掛ける場所やタイミングを選ぶ必要もあります。タンデムツーリングによって、人と人の関係がより深くなる」と思っています。」と結んだ。

ライダーがパssenジャーへの思いやりを持つことは安全運転につながり、より安全で楽しい二輪車の世界を広げてくれるはずだ。